

救急基金だより

1分1秒を争う、いのちのために
救急基金

- 救急基金の歩み
- 寄附金募集事例紹介
 - ・比企広域消防本部
 - ・下関市消防局
- 平成17年度救急基金会計の決算
- 平成18年度救急基金会計の予算



救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

財団法人 救急振興財団

救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された財団法人救急振興財団は、設立当初より11,242名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、財団法人救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を基金として積立、その運用益を用いて応急手当講習会

で使用する資器材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

<平成5年度～平成8年度>

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成するための講習会の開催

<平成9年度>

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

<平成10年度～平成17年度>

消防機関が住民向けに行う応急手当講習会で使用する資器材の寄贈。

寄附金募集事例紹介

比企広域消防本部

比企広域消防本部の管轄する地域は東京から40km～70kmの距離圏にあり、埼玉県ほぼ中央部に位置し東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、吉見町、ときがわ町、東秩父村の1市5町1村で構成され、2署7分署において管轄されています。

外秩父東麓に連なる山地、丘陵、森林、平地と多様な地形に恵まれ、甲武信ヶ岳を源流とする荒川とこれに注ぐ市野川・都幾川等の中小河川が相まって比企圏域を東流しています。このように地域の特色として、山間、河川を有しているため、観光客による交通事故等が増加していること及び管内住民の高齢化に伴い救急出動要請が増加傾向にあるとのこと。

地域の方々の応急手当に対する関心度は

高く救命講習会への参加者も多いようです。広報誌「ひき」やホームページを通じて講習会の参加の呼びかけを積極的に行われています。広報誌においては、バースタンドサポートカードを掲載しています。これは、火災事故等でその場に居合わせた人（バースタンド）が被害にあわれた人に心肺蘇生法等をすぐ措置できるよう手順が書かれたイラストを掲載したもので、切り取ってカードにして持ち歩き、とっさの救急活動ができるように工夫されています。ホームページの生活安心情報のコーナーでは、身近な災害対策や初期消火・応急手当をわかりやすく紹介しています。

尚、このホームページは全国消防広報コンクールホームページ部門で2年連続最優秀賞を消防庁長官から授与されています。
(<http://www.hiki-saitama.jp/119/>)

救急基金については、管内の救急告示7病院の受付に常時設置しているとのこと。募金は主に病院・救急車にお世話になった患者さんやご家族からよせられているそうです。

このように比企広域消防本部と地域の皆様に応急手当の普及に多大なご協力を頂いたことに感謝の意を表し、今回寄贈させて頂いた資器材等応急手当の普及にご活用いただければ幸いです。



寄附金募集事例紹介

下関市消防局

下関市は、平成17年2月13日に隣接する豊浦郡4町（豊浦町・豊北町・豊田町・菊川町）と合併し、平成17年10月1日には、本州最西端の中核都市として新たな道を歩みはじめ、これに伴い、消防本部名も「下関地区広域行政事務組合消防本部」から「下関市消防局」に変更されました。

管轄地域は日本海及び瀬戸内海に面しており、好漁場に恵まれ古くから水産業が発展し、全国有数の漁業基地として繁栄を築いてきました。その中でも「福」をよぶ魚として全国一の水揚げを誇る「フク」は、しものせきブランドとして多くの方に知られています。

当消防局は、応急手当の普及、救急基金の募集において、日頃より熱心に活動されており、特に応急手当を広めるにあたり、自治体、学校、企業単位での要請により行うケースや高校での授業、部活動の一環として講習会を実施されています。また、石油商業組合等を対象に市民参加型の「市民救急員制度」を設け、平成13年度から活動しています。所轄署内において4時間に及ぶ講習を習得していただき、講習終了後には普通救命講習終了を証明するステッカーを配布。ステッカーをお店に貼っ



てもらい、救命措置ができるお店であることをアピールしています。管内の石油商業組合（ガソリンスタンド）駅前デパート職員、社会福祉協議会職員などの方に参加して頂き、平成16年8月末現在、累計14回実施、394名の養成にまで規模が広がっています。

救急基金については、これまで管轄内の消防署内に設置していたため、広く一般の市民の認知度はあまり高くなかったため、今後は市民が多く訪れる市役所への設置を検討していただけるとの心強いお言葉をいただき、救急基金への理解が益々浸透することを期待するところです。

皆様の寄附で購入しているもの



平成10年度より、皆様から寄せられた救急基金の運用益にて、

- ・心肺蘇生訓練用シミュレーター
- ・応急手当講習テキスト
- ・応急手当リーフレット付感染防止用シールド

等を寄贈させていただいております。

これらは、各消防本部に寄贈され、一般住民向けの応急手当の講習会等で活用されています。



*過去の救急基金だより（NO. 1～NO. 6）につきましては、救急振興財団のホームページ（<http://www.fasd.or.jp>）の 救急基金 の項目の中に掲載しています。

■平成17年度救急基金会計の決算（単位：千円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 収入の部			
1 寄附金収入	2,000	1,087	913
2 救急基金運用収入	737	733	4
3 雑収入	0	0	0
当期収入合計 (A)	2,737	1,820	917
前期繰越収支差額	502	504	△2
収入合計 (B)	3,239	2,324	915
II 支出の部			
1 事業費	727	605	122
2 救急基金積立支出	2,000	1,087	913
当期支出合計 (C)	2,727	1,692	1,035
当期収支差額 (A) - (C)	10	128	△118
次期繰越収支差額 (B) - (C)	512	632	△120
※平成16年度末救急基金残高		168,810千円	

■平成18年度救急基金会計の予算（単位：千円）

科 目	予 算 額	前年度予算	増 減
I 収入の部			
1 寄附金収入	2,000	2,000	0
2 救急基金運用収入	739	737	2
3 雑収入	0	0	0
当期収入合計 (A)	2,739	2,737	2
前期繰越収支差額	634	502	132
収入合計 (B)	3,373	3,239	134
II 支出の部			
1 事業費	727	727	0
2 救急基金積立支出	2,000	2,000	0
当期支出合計 (C)	2,727	2,727	0
当期収支差額 (A) - (C)	12	10	2
次期繰越収支差額 (B) - (C)	646	512	134

皆様からの寄附金は、これまで消防本部等に設置された救急基金箱によりお寄せいただいております。このたび、新たに振込用紙を添付したリーフレットを作成いたしました。救急基金箱とともにご活用いただき、幅広い方々からの救急基金へのご協力をお願いいたします。

なお、救急基金箱が破損等により使用できない場合などのお問い合わせは下記をお願いいたします。

救急基金だよりNo.7【編集・発行】財団法人救急振興財団事務局総務課

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6 ☎ 042-675-9931

FAX 042-675-9050